

令和3年度県土整備プランフォローアップ委員会 特定テーマ

『ニューノーマルへの移行に向けた社会資本整備のあり方』

新型コロナウイルス感染症の影響により、県民の暮らし方や働き方などに大きな変化が生じました。

新型コロナウイルスの感染拡大は未だ収束の兆しがみえず、その影響が長期化する中、このような県民生活や社会の変化は進行・定着していくことが想定されており、「新しい日常（ニューノーマル）」への転換は避けられないと考えています。

このような状況の中、県民生活に直結する社会資本整備についても、「ニューノーマル」という観点から、どのように取り組むべきかを、引き続き、しっかりと検討していく必要があると考えています。

については、「ぐんま・県土整備プラン2020」の目指す将来像の実現に向けて、新型コロナウイルス感染症による影響等も踏まえた上で、ニューノーマルへの移行に向けた社会資本整備を、どのように進めていくべきか、委員の皆様のご意見を伺います。

「ぐんま・県土整備プラン2020」抜粋 (P.6)**第1部 基本計画編 社会資本を取り巻く変化の見通し****9 コロナ後の「ニューノーマル」への移行**

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機として、改めて東京一極集中の是正とリスク分散の重要性が認識される中、東京都の人口が転出超過に移行するなど、分散型の新しい国の形、暮らし方が求められています。働き方の面では、企業におけるテレワーク、ローテーション勤務、時差出勤、自転車通勤の積極的な活用等の取組が促されました。

また、このような事態にも対応可能な遠隔教育などICT*等を活用したリモート・サービスへのニーズの高さが改めて浮き彫りとなったことから、さまざまなサービスにおけるリモート化等によるデジタルトランスフォーメーション*が加速化すると見込まれます。さらに、マスク等の衛生用品も含めたサプライチェーン*の脆弱性が顕在化したことを踏まえ、強靱なサプライチェーンの構築が進むなど、このような社会の変化は感染収束後においても進行・定着していくことが想定されます。